

## 「ゴミ問題と自分たちにできること ～身近な問題から～」

三重大学教育学部附属小学校 今井 啓介

### 概要

第4学年社会科「私たちのくらしとごみ」の単元において、自分たちの生活の中で必ず出てくるゴミについて調べ、見学を通して、課題を見出し、自分たちにできることは何かないのかということを考えながら学習を進めていく。さらに、本単元と関連させて、リサイクルの学習も加えていきたい。日常生活の中で何気なく使っているものの中には、リサイクルされているものも多くある。しかし、そのことに気づかず、生活している。そのことを子どもたちが気づいていくことで、環境問題を身近な問題としてとらえることができるようになると思う。

### 授業実践

#### ○ 毎日、どれくらいのゴミが出ているのか（3時間）

子どもたちが生活する中で出るゴミについて、自分のうちで調べる活動を行った。その結果、必ず毎日出るものと出ないものがあることに気づいた。

その後、自分たちの地区のゴミ分別表とそのゴミの種類が収集させる回数や曜日を調べる中で、たくさん集める日があるゴミの種類とほとんど集める日がないゴミがあることに気づき、前回調べた家庭で出るゴミの種類と量と比べながら、考える姿が見られた。また、ゴミの種類の中には、リサイクルできるものがあるということに気づき、リサイクルされたものはどのようなものになるのか興味をもって調べようとする子どもの姿が見られた。

#### ○ ゴミを集める仕事（2時間）

学校に津市からゴミ収集車の仕事をしている方に来ていただき、パッカー車やゴミの収集方法、気をつけて欲しいことやお願いについて話をもらった。



子どもたちは、一日にどのくらいのゴミを集めているのかや仕事をするとき大変なことは何かあるのか、ゴミを捨てる人たちに守ってほしいことは何かあるかなど、興味をもってきくことができた。

また、この活動の中で、実際にゴミが集められている場所はどんなところなのかということに興味をもち、見学に行くことを伝えた。

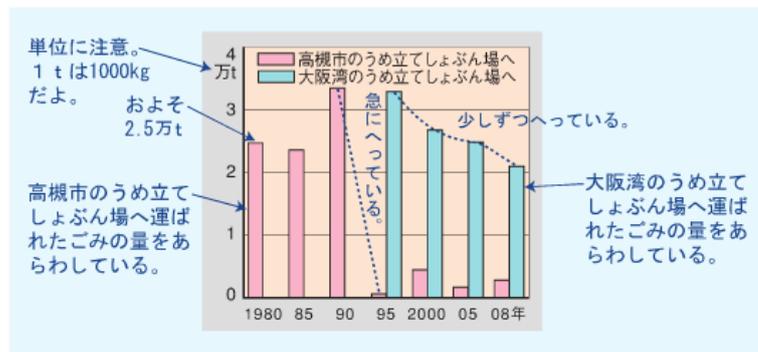
### ○ ゴミ処理のしくみ（5時間）

白銀環境清掃センターと西部クリーンセンターに見学に行った。実際に自分たちの家の周りにゴミを集めに来てくれているゴミ収集車がやってくるの見ることで、より身近に感じた子どもたちは、興味をもって見学していた。ゴミがクレーンで持ち上げられたり、大量のゴミの様子を見たりして、自分たちに出来ることはないのか、燃やされたゴミはどうなるのかなど新たな疑問が生まれた。



### ○ 燃やされたゴミの行方（2時間）

白銀環境清掃センターと西部クリーンセンターに見学に行った後、教科書を使って、右のグラフから埋め立て量の変化とそこで働く人の工夫や努力を考える中で、様々な人が環境を守っていくために、工夫をしていることを学習した。そして、その中で自分たちにもできることはないかと考え、リサイクルというキーワードが子どもたちから発表された。



↑ うめ立てられたごみの量のうづりかわり (2010年 高槻市役所調べ)

## ○ リサイクルされたゴミの行方（4時間）

燃やされたゴミの行方から、そこで関わる人々の工夫や努力を学び、自分たちにもできることはないかと考え、リサイクルに焦点を絞り、学習を行った。まず初めに、右の図を見せ、そこから気づいたことやリサイクルについて知っていることを話し合った。

その結果、自分たちの周りで使われているものの中に、リサイクルされて商品になったものがあることに気づいたり、実際に使ったりしているということに気づいた。

また、子どもたちの中には、もっとリサイクルについて調べてみたいという思いをもったり、環境をよくするために自分にできることはないかと考えたりする姿が見られた。

	リサイクルゴミの種類	ゴミを出すときに注意すること
スプレーかん		スプレーかんは、せんようの「おなまけ」でガスをぬいておく。その他のかんは、中を水であらい、とうめいが半とうめいのふくろに入れて出す。
自用品		
古物類		ひもでしばって出す。
紙類		種類別に分け、ばらばらにならないように、ひもでしばって出す。
びん類		ふたを取り、中をあらって、ごみステーションの空きびんボックスに入れる。

終わりに

今回の実践を通して、環境問題を身近な問題として捉えることができた。下の資料は子どもが自主学習で調べてきたものである。この子どもは、リサイクルについてもっと深く知りたいという思いを強くもち、リサイクルされている商品やマークなどについて調べてきた。そのことを友達にも伝え、いつでも見れるように掲示しておくことで、他の子どもたちもリサイクル、環境という視点で様々なものをみる力がついてきたように感じる。

今後も教科書等の資料だけでなく、実際に足を運んで見学をしたり、友達の調べてきたものを掲示したりしながら、環境について深く考える場を用意していきたい。

